

## 平成29年度授業改善アンケート「学びのリテラシー（1）」

Q1 平成28年度前期に実施した学生からの授業評価アンケートをもとにして、授業改善を試みましたか。

- |                |    |
|----------------|----|
| 1. 改善を試みた。     | 2  |
| 2. ある程度改善を試みた。 | 13 |
| 3. 特に変わらない。    | 4  |

Q2 以下の項目について、授業改善を試みた点について記載してください。

### 1. シラバス

- ・日本語表現の講義の削減と、グループワーク及びプレゼン追加によるスケジュール変更。
- ・より系統的となるよう組み替えた。

### 2. 内容・課題の量

- ・課題量を少し変更した。少し提出機会が多かったため、少しだけ減らした。
- ・グループワーク用の課題を用意。
- ・学生が決める割合を高めた。
- ・期末課題として課している自身で設定したテーマにかかわるプレゼンテーションについて、前年度のテーマ例の紹介、調査方法の指導などを増強した。
- ・添削の徹底（添削内容をより具体的に）
- ・今後、専門で学修するであろう内容の予習的課題を多く取り入れた。
- ・各担当教員からの課題は、過重にならないよう配慮した。また全体での活動及び総括にあたる課題はグループ活動としたことで、能動的な学修としても機能したと思われる。
- ・文章講座の練習問題を少し減らした。

### 3. 内容・課題の難易度

- ・全体的に等量になるようにした。（第1回～第15回まで）
- ・配付資料の改訂を行った。
- ・難しい内容と基本的内容のバランスをより考えて、説明も多くし理解が深められるよう取り組んだ。
- ・日本語としてあいまいな難問を削った。

### 4. 成績評価基準の明確さ

- ・後半の個人によるプレゼンは学生にも評価させ、成績評価に反映。
- ・教員が用いるレポート採点表を配付し、それを基に学生自身に採点させた。
- ・前年度の高い評価例（具体的にレポートを示して）を挙げて評価基準を説明した。
- ・プレゼンでの相互評価を成績に反映させることを口頭で伝えた。

### 5. 授業の進め方

- ・学生の理解度を確認し、次回の授業内容を修正した。
- ・レポートの書き方に的を絞った。
- ・日本語表現の講義を削減。
- ・グループワークの時間を導入。
- ・グループとしてのプレゼンも実施。
- ・重要な点について、異なる視点から繰り返し説明した。
- ・学生の書いた物を相互に検討する学習活動を早い段階から導入した。
- ・昨年度の評価を踏まえ、原則グループによる学習活動とした。

## 6. 学生とのコミュニケーション

- ・レポート返却の際のコメント実施。
- ・学生同士のディスカッションの場面に教員として積極的に参加した。
- ・各担当教員が学生と話しやすいように巡回を徹底した。
- ・調査に行き詰まっている学生には、キーワードなどヒントをその都度与えるようにした。
- ・最終課題の具体的な決定でのアドバイスと、課題解決のためのリサーチ、プレゼン作成について、随時学生に助言できるようにこころがけた。
- ・グループ作業、個人作業中の質問に可能な限り答えた。

## 7. 説明の分かりやすさ

- ・オムニバス方式をとっているため、教員間の連絡を密にして、説明をわかりやすくかつ統一できるようにした。
- ・これまでの学生がつまづきやすい点について、注意点・改善方法等を例示しながら説明した。
- ・学生の理解を確認しながらすすめた。
- ・差支えの無い範囲で、前年度の資料を参照させた。

## 8. 質問の機会

- ・授業終了後、授業中にも質問の機会を積極的に設けた。また、メールでの質問も受け付けた。
- ・できるだけ多くの学生に発言の機会を設けた。
- ・質問は随時受け付けるようにしており、授業後も質問しやすい空気の醸成に努めた。
- ・随時学生の質問に対応できるよう、各教員が待機できた。

## 9. 板書等の見やすさ・視聴覚教材等の活用

- ・積極的にICTを活用した。
- ・後半の個人プレゼンはパワーポイントを使用させた。

## Q3 Q2の項目以外で、特に意識して改善を試みたことを、ご自由にお書きください。

- ・一年生前期の講義なので、学生同士のコミュニケーションの機会を多く作るために、ディスカッションやグループワークの機会を多く設定した。
- ・パソコンを用いた演習もあるため、操作の慣れに個人差があることを考慮して、進行速度を調整した。
- ・高校までの受動的学習から大学における能動的学修への切り替えをどのように行うか、毎回手探りのような状態で授業を行っています。あまりヒントを出し過ぎるとヒント待ちの姿勢になってしまうので、適宜、逆に質問を返すことで「自分で考える」動機付けを試みました。
- ・前年度から、最終レポートを添削し返却するようにしている。
- ・外部講師を招いた授業を挿入、実施した。
- ・前橋市内美術館（アーツ前橋）での学外授業を実施し、内容の充実をはかった。
- ・実際に図書館で授業し、文献へのあたり方を実地指導した。
- ・使用教室内の机の配置、レイアウトを適宜変化させ、学生同士のコミュニケーションを促したり、討議しやすくしたりし、配慮した。
- ・来年に向けて改善しようと考えた内容は、
  - 1) グループワークに上手く参加できない学生に対する促し、声掛けの工夫。
  - 2) 複数の教員が担当していることで、学生からの質問に対応できないことについて、申し送りを意識する。